

ブルーマウンテンズ市 報告書

三田学園高校1年 黒田真衣

私は、2015年7月24日～8月7日までの2週間、三田市の派遣高校生としてオーストラリアのブルーマウンテンズ市に行って来ました。ホームステイをし、オーストラリアの人々の日常生活を経験することで、様々な文化の違いを肌で感じることができました。

特に私は食文化に興味があり、多民族国家であるオーストラリアと日本を「食」で比較することで、多くのことを学ぶことができました。

私は2つの家庭に1週間ずつ滞在しました。最初の1週間は、Nicholson ファミリーと、2週目は Sherriff ファミリーと過ごしました。ホストファミリーの方はどちらともとても優しく、フレンドリーで、家族の一員として私と接してくれました。たくさんのことを経験し学ぶことのできた、かけがえのない2週間となりました。

With Bridonie



With James'family



<家庭料理>

Nicholson family はスコットランドとイングランド出身、Sherriff family の Host Father はイングランド出身、Host Mother のおじいさんは日本出身でした。

朝食は両方の家庭でレーズンパンやジュースなど、日本とよく似ていました。

昼食は毎朝サンドイッチを作って持って行きました。フルーツを、毎日3つずつほど持って行き、日本に比べ沢山食べた印象があります。

夕食は両方の家庭で毎晩世界各国の料理を食べることが出来ました。Nicholson Familyでは、イタリア料理などの西洋料理、中華料理、インドネシア料理など。Sherriff Familyでは、イタリア料理、BBQ、ピザ、タコスなどです。どちらの Host mother も料理がとても上手で、毎日楽しみでした。

タコスなど辛い料理は本場と同じように辛く作るのではなく少し甘めにしたり、インドネシア料理の上にリンゴジャムをぬるなどして、オーストラリアの人々の口に合うように様々な工夫がされていました。私の、タコス=辛い=苦手という印象も変える事が出来、もっと色々な国の料理にも挑戦してみたいと思うようになりました。

その他にも、オーストラリアならではのスイーツであるロッキーロード、ラミントンなども作って下さいました。

Italian ↓



Indonesian ↓



Tacos ↓



Rocky Road ↓



<日本文化>

私は日本文化を紹介するために、いくつかの日本料理をホストファミリーと一緒に作りました。特にお好み焼きは大人気で、喜んで食べてくれました。習字、折り紙、けん玉なども体験してもらいました。日本語を勉強している17歳のJamesと14歳のAengusには好きな漢字を墨で書いてもらい、5歳のJackは折り紙の手裏剣を気に入ってくれました。Host MotherのJacquiはartが好きで、習字をととても気に入ってくれました。



お好み焼き ↑



わらび餅 ↑



桜餅 ↑



習字 ↑

<日常>

Nicholson ファミリーはキリスト教徒で、私を教会にも連れて行って下さいました。Host sisterのブリトニーは毎週日曜日、朝は小さい子に聖書について教えるため、夜には自分が

学ぶために教会へ通っていました。また、食事を食べる前には家族でお祈りをしました。初めてのそのような経験をしたので、とても興味深かったです。夜には教会へジャズを聞きに行きました。数か月に一回しか演奏されないジャズを聞きに行ったりもしました。

週末には動物園にも連れて行って下さり、コアラと写真を撮ることも出来ました。そこにはたくさんの動物がいて、特に鳥は日本に比べ種類が多く、様々な色や鳴き声を持った鳥が多かったです。

Zoo ↓

Jazz ↓



Sherriff ファミリーは、シドニーに連れて行って下さいました。朝の動物園では、寝ているコアラではなく、木の上を歩いたりジャンプしているコアラを見ることができました。その後、シドニー全体を見渡せるセント・コインタワーに上りました。オペラハウスやハーバーブリッジなども行くことができ、夜には船の上の結婚式にも連れて行って下さいました。シドニーの町を船の上から、夕焼けと共に見ることもできとても豪華でした。

Opera House ↓

On the boat ↓



1週目の最後の日にはブリトニーがスキーキャンプに行ったので、友達のアリアナの家泊まりました。アリアナのお父さんはオーストラリア出身、お母さんは中国出身で、中国風の家でした。夕食には中華料理を作ってくれました。アリアナはお父さんと会話する時は英語で、お母さんと会話する時には中国語で、私と会話する時には日本語で話していました。2か国語でも少ししか話せない私に対し、アリアナは3か国語も話せることが出来、私も将来3か国語話せるようになりたいと思いました。



<学校>

私はウィンマリー高校に通いました。日本よりとても自由な雰囲気です。1つの授業は70分で行われ、授業中の飲食は可能です。また、1時間目と2時間目の間に20分間のリセスという休憩があり、みんな外に出てお菓子を食べます。プレゼンテーションなどのインターネットを使った授業も多く、学年が上がるにつれて選択できる科目が増えていきます。私は、プレゼンテーションを3回もさせて頂きました。その日はちょうど8月6日で、70年前に広島に原爆が投下された日だったので、クラス全員で鶴を折りました。折り紙やけん玉は、とても人気があり既に遊び方を知っている生徒もいました。

私が最も興味深かった授業は日本語の授業でした。クラスのみんなは簡単な文章を読んだり、音読したりしていました。同じ漢字でもたくさんの読み方があることや、平仮名とカタカナの違いなどを聞かれたりすると、いつも何気なく使っている日本語が難しく感じられ、いつもと違う観点から見る事ができておもしろかったです。

<スーパーマーケット>

スーパーは日本と似ていました。しかし、食べ物の種類が多くトマトだけでも普通のオーストラリア産トマトやローマトマトなど4種類もありました。1つのスーパーで様々な国の食べ物が買える点に、多国籍国家ならではの魅力を感じることができました。

学校の友達と↓



4種類のトマト↓



<Katoomba>

1週目の水曜日、国際交流協会の方が Katoomba に連れて行って下さいました。オーストラリアならではの雄大な自然を全身で感じ、スリーシスターズも見ることができました。カンガルーの肉にも挑戦しました。その後、Colleen Kime さんを訪ね、お茶を頂きながら楽しくお話しました。とても楽しい1日でした。

Three Sisters



→<食文化>

多民族国家であるオーストラリアでは、様々な国の食べ物を食べる事が出来ました。そして、それらは全てオーストラリアの方々が食べやすいように様々な味付けがされていました。わたしは、廻る寿司に連れて行ってもらったのですが、そこでは1つの寿司には1種類の魚という日本の寿司と違い、1つの寿司に卵、イクラ、マヨネーズなど色々な材料が入ったものを食べる事が出来ました。また、ウィンマリーに来ていたイタリア人の留学生に料理の違いについて聞いてみると、イタリアのピザはオーストラリアのピザに比べあまり材料をのせず、シンプルに作るそうです。オーストラリアでは、本場と同じものをそのまま作るのではなく、より多くの人々が世界各国の料理を気軽に楽しむことのできるよう様々な工夫がされていることに気が付きました。私もこの工夫のおかげで沢山の国の料理を食べることが出来、これこそが多民族国家の魅力だと思います。

<Host Family>

Host SisterのブリトニーやHost Brotherのジェームズとは日本とオーストラリアの学校の違いについてたくさん話しました。また、彼らは私がみんなの会話に入れるように話の内容を要約して教えてくれたりしました。いつでも優しく、彼らのおかげでオーストラリアでの滞在は、より思い出深いものとなりました。最後の日には友達を沢山呼んで、私のためにパーティーを開いてくれました。一緒に和菓子とピザを作り、たくさん話してたくさん笑った、ホストファミリーや友達との日々は、文化や言語の違いを超えてかけがいのない思い出となりました。皆さんとても明るく、家庭は本当に居心地が良くて、毎日家に帰るのが楽しみでした。

<最後に>

私は今回オーストラリアに行くまでに、何度か海外に行ったことがありました。しかし、それらは、全て日本人と一緒に観光としてでした。分からない事があっても近くにはいつも日本人がいました。しかし、今回はたったの日本人2人でした。家や学校で日本人は1人。会話の手段は全て英語でした。はじめは、英語が全く聞き取れずコミュニケーションできるかとても心配でした。しかし、日が経つにつれて少しずつ耳が英語に慣れていき、みんなが何の話をしているのか、少しずつ分かるようになっていきました。

また、私はこの2週間でテストのためだけの英語ではなく、実際に相手と会話し、共に過ごす時間を楽しむための英語の必要性を改めて感じました。それと同時に、自分から積極的に会話しようとする事、自分の意見を持つことの大切さも実感しました。自分がみんなと会話したいという気持ちを持つかどうかで、その時をどれほど楽しめるかが大きく変わってくるのです。オーストラリアの文化を感じると共に、日本の文化もたくさん知ってもらえたと思います。様々な人々と出会い、たくさんの価値観を知り、違いを知る事の大切さを身をもって学びました。この経験を通して、テストのためだけの勉強ではなく、たくさんの知識を持ち様々な違いを受け入れることのできる大人になるための勉強しようと思いました。

このような貴重な機会を与えて下さった三田市国際交流協会の方々、協力して下さいました。全ての人々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。